



NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

災害救助犬2013年度認定審査規定

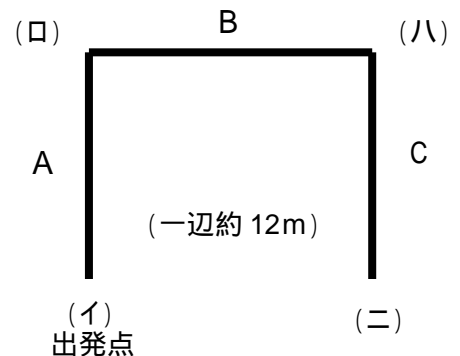
NPO 法人災害救助犬ネットワーク
認定審査委員会 訓練審査部

1、服従作業（表記以外に審査員が必要と判断した場合は、テストの作業を行ってもらうこととします）

服従作業は、指導手が災害現場において、適切で柔軟な判断、行動ができ、犬をコントロールすることと、最低限、被災地において他者に迷惑をかけない捜索活動が可能か、を審査します。

脚側停座させ審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。
各地点での各作業は、すべて審査員の指示があるまでは次の作業に移らないください。

紐付き脚側行進(往路は常歩・復路は速歩)
出発点(イ)に行き、脚側停座させ、指示により出発する。
往路(イ) (ロ) (ハ) (ニ)は常歩にて脚側行進、(ニ)地点まで来たら、回れ右をして、留まることなく速歩にて復路を(イ)地点まで戻り、回れ右をして脚側停座させる。
(ハ)と(ニ)の間C地点に繫留された犬がいる。



紐無し脚側行進及び行進中の作業(往復常歩)
紐を犬から外し、指導手の肩にかけるか、ポケット内にいれ、紐付き脚側行進のときと同様に出発する。
往路の途中(イ)と(ロ)の間、A地点の群衆の前で一旦脚側停座させる。
再び脚側行進をはじめ、B地点で立止させ指導手はそのまま(ハ)地点まで進む。B地点まで戻り脚側停座させ、同じくC地点で伏臥させ指導手は(ニ)地点に進む。C地点まで戻り脚側停座させる。回れ右をして留まることなく常歩にて(イ)地点へ向かう、復路の途中(ハ)と(ロ)の間、B地点あたりで後方から3～4人のジョキング者が通り過ぎるが、そのまま脚側行進を続け、(イ)地点まで戻り回れ右をして脚側停座させる。各地点では、すべて審査員の指示があるまでは次の作業に移らないください。

遠隔作業(対面で各1回)

紐無しで(イ)地点より常歩脚側行進で(ロ)地点まで行き、回れ右をして犬を脚側停座させる。指導手は常歩にて(イ)地点に戻り、回れ右をして犬と対面する。審査員の指示でそれぞれ3姿勢(伏臥、立止、停座)を一声指符でとらせる。指示により招呼し、脚側停座させる。すべて審査員の指示があるまでは次の作業に移らないください。

幅跳び

幅跳び台の前で脚側停座させ、踏み台から指導手とともにAの幅跳び台に上り、犬をB台へ跳び越させ、犬が跳び越えれば「待て」をかけB台上で待たせる。指示により、B台下まで行き、跳び越えたB台から降りし脚側停座させる。
飛び越し幅は、大型犬 110cm、中型犬 80cm、小型犬 50cm。



休止

指定された場所に行き、犬に休止姿勢をとらせて、犬を繫留する。指導手は、指示により指定された場所で休止終了まで対面せずに待つ。審査員の指示で犬のもとに戻り脚側停座させる。

なお、休止場所は、服従コースのC地点。グループの先頭番号の犬が作業中は、グループ最後の犬が休止(繫留)し、先頭番号作業終了後からは終了順に休止となる。係留場所は雄雌別に2ヶ所を設置してある。

作業の順序、並びに課目の変更は審査員の指示に従ってください。声符、指符とも認めます。
作業中、他の犬や人に対して危害を加えた場合若しくは、そのような動作が認められた場合、以降すべての作業を中止とします。(すべて作業時にも適用します)



NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

2、障害物通過作業(紐無し声指符あり)(a)～(d)

障害物作業はタイムではなく、確実に作業させることが重要です。予測不能な災害現場において、指導手の適切な判断のもと、犬を掌握し、犬とともに作業をさせられることができるか、を審査します。

障害物の手前、出発点の任意の位置に行き、犬を脚側停座させ、審査員の指示により始める。1つの障害物を通過し終われば一旦、脚側停座させ、審査員の指示により次の障害物に進む。(作業順は審査員が指示)



(a)シーツ歩行通過
急がずにゆっくりと
バランスをとりながら、
確実に通過させること。



(b)不安定地通過
障害物上の中央で犬
を一旦立止させる。
ブルーシートに異物
が入っている。
上記の上で波板が
乗っている。



(c)はしごを含む
高所通過
はしごを登って、高
所を通過後、傾斜した
板上を通過して降りる。
指導手の指示のもとで
ゆっくりと確実に。



(d)トンネル通過
直径約60cmの蛇腹ト
ンネルを通過させ出口
を出れば待たせ指導手
が出口へ行って停座さ
せる。

3、搜索作業(平地・瓦礫2ヶ所)

A: 平地搜索は、地形変化に対応し、大型犬、小型犬それぞれの特性を發揮させ、犬の行動・反応への指導手の判断と対応、指導手の指示のもとに指導手から離れた所においての犬の搜索状況を審査します。

B: 瓦礫搜索は、複雑に入り組んだ瓦礫間を確実な指導手の判断と、犬の踏破搜索能力を審査します。

(A) 平地搜索(雑木林・山野想定現場)

ヘルパー数名・搜索時間10分間

(B) 瓦礫搜索(家屋倒壊・瓦礫想定現場)

ヘルパー数名・搜索時間10分間

(A)、(B)とも搜索現場は、審査会前日に審査員が決定し説明会で発表します。

以下、(A)、(B)とも共通です。

- 1、進行係の指示により、指導手は出発点に行き、犬を脚側停座させ、審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名、告知方法を申告し、犬の紐、首輪を取り外し、審査員の指示により作業を開始してください。
- 2、ご褒美の為にボールや食べ物等の使用は認めますが、現場に落とさないようにしてください。なお、ご褒美を使用する方は、審査前に必ず審査員に申告してください。
- 3、搜索作業はスタート点を通過した時点から時間をカウントします。
- 4、搜索作業中の声符、指符は認めますが、立入禁止区域には指導手は入ることはできません。
- 5、犬が発見告知(原則として告知報吠)したと判断したら、指導手は手を挙げ、審査員に「発見」を知らせる。確認に入るか、犬を呼び戻すかは、審査員の指示に従ってください。

4、デモ用BOX搜索作業

3つのBOXの1つにヘルパーが隠れます。紐付きでBOXを搜索させて確実に発見咆哮させて下さい。

認定犬となれば、デモに参加協力してもらい機会が増え、見学者に囲まれた中で、状況によっては紐付きでの作業になることもあります。そうしたデモにも対応できるような服従の錬度、作業意識が必要となってきます。

搜索中、作業意識低下やコントロール不可と審査員が判断した場合、時間内でも審査を中止します。告知動作において、指導手による誘導や搜索作業での咆哮ではないと審査員が判断した場合、発見、咆哮の有無にかかわらず減点、若しくは無効とします。(説明が必要か否かは審査員の判断になります)



NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

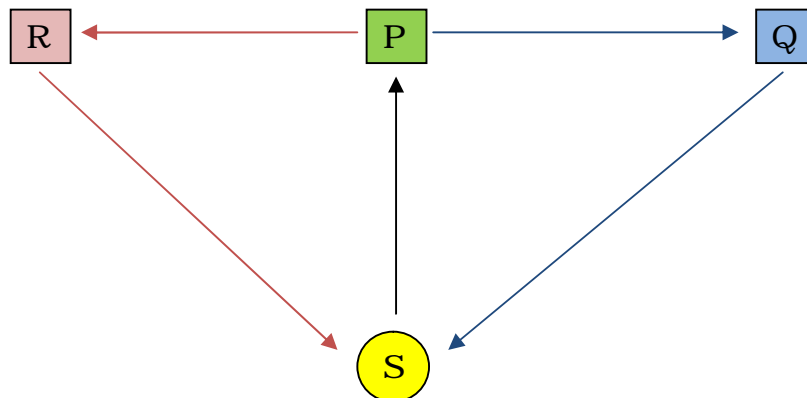
5、Sクラス審査(平地・瓦礫搜索のいずれか)

出陳者全員の審査が終了し、Sクラス受験資格者(Aクラスの中から各部門審査員一致推薦)を発表します。
Sクラスの受験は辞退することもできます。その際はAクラスとなります。
希望者を、より実践的な別会場を設定しSクラス審査をします。会場、作業内容などの審査詳細はその際に発表します。
DRDNモデルとしての審査状況は全員見学可能です。

6、遠隔作業(認定対象外作業課目)

スタート地点(S)から約20m前進させ台(P)に乗せる。P地点から左右いずれかの台(Q又はR)まで移動させ台に乗せる。その台からスタート地点(S)に招呼し脚側停座させる。必ずしも台に乗せなくてもよいが、SからP地点に、左右(Q・R地点)いずれかに三角形移動する。

移動距離20m(S-QR:20m超)、台の高さ47cm、面積82cm×90cm。



災害救助犬の認定世界基準に準拠した形で取り入れるもので、この先、進捗状況に応じて認定課目になる可能性を含んでいますが、現状では未定です。

NPO 法人災害救助犬ネットワークの災害救助犬は犬の自主性、作業意識、意欲を最大限に発揮させて搜索作業を行うことを目指しています。従って、搜索作業に消極的な犬に「前進」をさせ、遠隔指示で作業をさせるために取り入れるものではありません。またそのような場合、遠隔指示で効果があるとは思えません。

搜索作業はあくまで犬の作業意識、ヘルパーへの執着があり浮遊臭を追うもので、指導手の不用意な指示は犬の自主性、意欲を妨げるものになりかねません。

さらに導入目的には基本的な服従作業における精度、服従性を向上させたいと、いろいろな目標を持って訓練に取り組んでもらいたいとの願いがあります。

認定審査会における課目の追加は負担と考える方もいるかもしれませんが、本来、犬と訓練、作業をする場合、強制したりせずにいろいろなことに取り組むことは、犬とっても、指導手にとっても楽しみが増えるはずだと思います。正しく段階を踏んで訓練を積み重ねれば必ずできるようになります。犬と楽しく作業をする、そのことを踏まえ、搜索作業の意識、意欲、精度を向上させるためには、服従訓練の中での犬との信頼、楽しさがなければすべての訓練は成り立たなくなります。

その基本的なことを常に念頭におきながら、訓練に励んでもらえれば幸いです。

認定外作業課目(遠隔)は、認定合否には直接に影響されませんが、必要になる作業として確認します。

服従・障害・BOX 審査の後に続けて行います。

服従・搜索とともに審査要項の説明は、前日の夕方から行い質問を受け付けますが、審査当日は出陳者には説明しませんので、申告後は審査員の指示に従って速やかに作業をはじめてください。

その他、いずれの審査会場でもすべて審査員の指示に従って下さい。

シーズン犬は受付時に申告して下さい。審査は各課目の通常審査がすべて終了次第、順次行います。